

2026年度後期(3月3日)入学試験問題 一数学・国語一

※注意事項

名古屋産業大学

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 携帯電話は必ず電源を切ってカバンの中に、保管すること。
3. 試験の内容に関する質問は受け付けない。
4. 問題の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁または解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて、試験監督に知らせること。(問題は4ページ～21ページ)
5. 解答用紙は、受験科目ごとに決まっています。受験科目のマークされている部分を確認し、自分の受験科目と間違いの無いようにすること。解答用紙には、受験年度㉠、氏名㉡、受験番号㉢を下の(例)のように記入しなさい。あわせて、受験番号各桁に該当する□を黒く塗りつぶしなさい。(マークする)

(例) 数学を受験する場合の記入例

名古屋産業大学 2026年度 解答用紙

受験科目	国 語	英 語	数 学
	—	—	■

受 験 日	①	②	③	④	⑤	⑥
	—	—	—	—	—	—

⑤ 受験者氏名 (尾 張 花 子)

受験番号記入欄	1	6	1	1	0	1	A
受験番号マーク欄	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☒ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	☐ A ☒ B ☐ C ☐ D ☐ E ☐ F ☐ G ☐ H ☐ I ☐ J ☐ K ☐ L ☐ M ☐ N ☐ O ☐ P ☐ R

6. 解答は各設問で指定された解答欄に記入すること。
7. 解答は解答用紙の選択肢番号に当たる ☐ を黒く塗りつぶすこと。(マークする ☐ の塗りつぶし方(マークの方法)は、下記の例を参照すること。

良 い 例	
悪 い 例	  

8. マークを消す場合には、消し残りがないよう注意すること。

数 学

問題 4 ページ～7 ページ

設 問 数 18

1. 次の問い (1) から (16) の解答を、解答群 (ア) ～ (オ) から選べ。

(1) 次の式を展開せよ。解答番号は (1)。

$$(a+b+c)(a-b+c)$$

(ア) $a^2-2ab-b^2+c^2$ (イ) $a^2-2ab+b^2-c^2$ (ウ) $a^2+2ac-b^2+c^2$

(エ) $a^2-b^2+c^2$ (オ) $a^2-2ac-b^2+c^2$

(2) 次の式を展開せよ。解答番号は (2)。

$$(x+2)(x^2+4)(x^4+16)(x-2)$$

(ア) $x^8+4x^4+12x^2-256$ (イ) $x^8-4x^4-12x^2-196$ (ウ) $x^{16}+4x^8+12x^4-256$

(エ) x^8-256 (オ) $x^{16}-256$

(3) $\frac{10}{7+\sqrt{2}}$ と $\frac{5}{7-\sqrt{2}}$ の大小を比較せよ。解答番号は (3)。

(ア) 左の値の方が大きい (イ) 右の値の方が大きい

(ウ) 左と右の値は等しい (エ) 大小は比較できない

(オ) 上記の選択肢の中に解答は無い

(4) x^4-18x^2+81 を因数分解せよ。解答番号は (4)。

(ア) $(x-3)^4$ (イ) $(x+3)^4$

(ウ) $(x^2-3)(x^2-3)$ (エ) $(x+3)^2(x-3)^2$

(オ) $(x^2+3x+3)(x^2-3x-3)$

(5) 次の式の2重根号を外して簡単にせよ。解答番号は(5)。

$$\sqrt{5+2\sqrt{6}}+\sqrt{5-2\sqrt{6}}$$

- (ア) 1 (イ) $2\sqrt{2}$ (ウ) $2\sqrt{3}$ (エ) $2\sqrt{5}$ (オ) $2\sqrt{6}$

(6) $(2x+3)^3$ を計算し、(6)の解答欄に解答せよ。

- (ア) $8x^3+28x^2+164x+48$ (イ) $8x^3+36x^2+54x+27$
(ウ) $8x^3+48x^2+96x+48$ (エ) $8x^3+72x^2+48x+48$
(オ) $27x^3+72x^2+48x+27$

(7)・(8) $y=x^2$ のグラフを x 軸方向に p 、 y 軸方向に q だけ並行移動したところ、グラフの方程式は $y=x^2-6x+6$ となった。この時の p 、 q の値を求め、 p の値は(7)の解答欄に、 q の値は(8)の解答欄に解答せよ。

p の値 (解答番号は(7))

- (ア) -1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) -4 (オ) 0

q の値 (解答番号は(8))

- (ア) -1 (イ) 2 (ウ) -3 (エ) 4 (オ) 6

(9) 10進数表示の数52を2進数表示にしたとき、正しいものを(9)の解答欄に解答せよ。

- (ア) 11011 (イ) 101110 (ウ) 110100 (エ) 111101 (オ) 111110

(10) $\sin \theta + \cos \theta$ が $\frac{1}{4}$ のとき、次の式の値を求めよ。解答番号は (10)。

$$\sin \theta \cos \theta$$

- (ア) $-\frac{1}{3}$ (イ) $-\frac{15}{8}$ (ウ) $\frac{7}{12}$ (エ) $-\frac{15}{32}$ (オ) 2

(11) 360 と 420 の最大公約数を求めよ。解答番号は (11)。

- (ア) 15 (イ) 20 (ウ) 30 (エ) 60 (オ) 120

(12) 360 と 420 の最小公倍数を求めよ。解答番号は (12)。

- (ア) 640 (イ) 2520 (ウ) 4320 (エ) 6720 (オ) 21600

(13) x, y は $1 \leq x \leq y$ を満たす自然数とする。このとき、 $\frac{1}{x} - \frac{1}{y} = \frac{1}{6}$ をみたす自然数の組み (x, y) は何組あるか解答せよ。解答番号は (13)。

- (ア) 0 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4 (オ) この中には存在しない。

(14) 10 円玉 7 枚、100 円玉 3 枚、500 円玉 2 枚の一部、または全部を用いると、何種類の組み合わせができるか？ 解答番号は (14)。

- (ア) 48 (イ) 68 (ウ) 87 (エ) 95 (オ) 96

(15) fight のすべての文字を用いて、順列を作る。このとき、f か t が両端にあるものは何通りあるか。解答番号は (15)。

- (ア) 12 (イ) 16 (ウ) 24 (エ) 64 (オ) 72

(16) 点 A が数直線上の原点を出発して、次の規則で動いている。

(規則)

1 枚の硬貨を投げて、表が出れば正方向に 3、裏が出れば負方向に 1 動く。

硬貨を 10 回投げるとき、点 A が座標 2 にいる確率を求めよ。解答番号は (16)。

(ア) $\frac{23}{64}$

(イ) $\frac{105}{512}$

(ウ) $\frac{15}{128}$

(エ) $\frac{6}{13}$

(オ) $\frac{21}{256}$

2. 区間 $-4 \leq x \leq 4$ における 2 次関数 $y = x^2 - 2ax + a^2$ の最大値を求めよ。解答は裏面の解答欄に記述せよ。解答番号は (17)。

3. 2 つの正の整数 a, b ($a > b$) の最大公約数は 20、最小公倍数は 240 である。解を満たす a, b を求めよ。解答は裏面の解答欄に記述せよ。解答番号は (18)。

国 語

設 問 数 18

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いま私たちに問われているものは「経済」なのか、「労働」なのか、はたしてどちらなのだろうか。

長い歴史を振り返るなら、人間たちはそんなことを考える必要もない社会のなかで、ほとんどの時間を過ごしてきた。たとえば、縄文時代の人々も労働をしていたが、それはそのまま自分たちが生きる世界の経済の創造でもあった。ここでは、労働と経済はまったく分離していない。山の木の実を拾うという労働は、自分たちの経済活動でもあった。

⑦ 近代以前の人間たちは、おおむね、このような世界で生きていたといってもよい。農民たちは日々田畑を耕す労働をし、それが自分たちの経済をつくっていた。職人も商人も、さらに旅芸人たちさえも基本的には同じであった。それぞれの労働が、社会的な経済と一体のものであったのである。

A、一般的に資本主義といわれてきた資本制商品経済が生まれると、ヨウソウは違うものになっていく。雇用された労働が大規模に発生し、経済と労働が異なるものになっていった。

B、いまの日本では三分の一以上の人々が非正規雇用のもとで働いている。その人たちは契約期間だけ低賃金労働に従事しているのであり、日本経済の動向どころか雇われている企業の経営さえ基本的にはどうでもいいものという立場にたたされている。それに注意を払わなければならないのは、日本経済や企業の経営の悪化によって非正規雇用の仕事がなくなってしまう、つまり自分の労働が維持できなくなってしまうからであって、経済や経営は自分とは結びようもないものとして展開している。自分の労働は自分の（生活）経済のためにあるだけであって、社会的、有機的な経済体系の創造と自分の労働が一体のものだという感覚はもちようがない。だから仮に経済状態がよく、いたるところで求人が行われているなら、その人はささいな理由で雇用先を替えていくことにもなるだろう。① その労働に固執する理由など、どこにもないのである。あるとすれば、転職の困難さからそれが生じているにすぎない。

② 企業の側でも同じようなことが発生している。労働者は必要な労働力にすぎないのだから、必要なければ解雇することである。そのとき、企業が心配するのは解雇が不当労働行為と認定され、社会的非難を浴びることぐらいであって、その問題さえ発生しなければ、企業はヨジョウ②となった労働者を解雇し、足りなくなれば募集するということを繰り返すようになるだろう。すなわち、企業にとって労働は経営のための道具であり、労働者にとっても労働は自分の生活のための道具にすぎない。とすると、経済と労働は異なったメカニズムで成立していることになる。その意味で分離しているのである。

資本主義はこのような時代をつくりだした。それが一面では「反資本主義」の時代を生み出した理由でもあった。十九世紀に入ると、

ヨーロッパでは激しい労働者の運動が展開していくことになる。多くの本ではその原因として、当時の労働が非衛生的な工場で低賃金、長時間労働として行われていたことを挙げている。もちろん、そういう面もあっただろう。ところが、当時の労働者自身が書いた文書などを見ると、そのことよりも労働の誇りが失われたと書かれていることが多い。自分の労働が経済の道具にすぎなくなった。働く人自身の主導権のない、働く意味のない労働が広がった。仕事の後で一杯飲んで憂さ晴らしをする自由しかなかった。そんなことが書かれている。労働者たちにとっては、誇りをもてない労働に従事し続けなければならない苦痛という問題のほうが大きかったのである。

④ この問題は今日でも解決してはいない。だが二十世紀に入ると、新しい条件が生まれたことも確かだった。そのひとつは、国際市場が拡大しその市場を先進国がドクセンした③ことだった。それは先進国の労働者の雇用条件を向上させた。とともに一九一七年にはロシア革命が成立し、「社会主義」が具体的な問題になったこともみておかねばならない。あまりにも横暴に振る舞えば、資本主義が打倒されるかもしれない時代が発生していることを、資本主義の側は意識せざるを得なくなったのである。それは先進国の社会保障を充実させることになった。こうして雇用条件や社会保障が向上し、「豊かな時代」④が形成される。そのことが一時のハイオンをつくりだした。

だが現在、先進国の富の独占が崩れ、社会主義も脅威ではない時代が生まれるとさまざまな変化が発生してきた。雇用という面でも、社会保障においてもこれまでのような安定は崩れ、私たちには過酷な未来がみえるようになってきた。そしてそのことによって「豊かな時代」というベールがはがれてしまうと、十九世紀と変わらない現実が私たちの目には映るようになってきた。働くことが楽しくないばかりでなく、働くことによって自分がボロボロになっていくと感じる現実。自分の労働は企業が利益の最大化を図るための道具にすぎないという感覚。誇りをもてない労働。社会的有用性が感じとれない労働……。

十九世紀の労働者たちが感じとっていた資本主義の実態が、再びみえる世界に浮上してきた。

この現実とは、労働は経済の道具なのか、それとも経済は私たちが働き生きるための道具なのかという問いを、再びもたらすことになったのである。私たちの目的は、誰もが幸せに生きる社会をつくることにあったはずだ。そのためにもう一度経済とは何か、労働とは何かを問いなおすことはできないか。

（中略）

それは労働においても同じである。人は労働という場のなかで、あるいは労働を成立させている関係のなかでときに充足感を得、と

きに虚しさを感じている。とすると、問題は経済や経営の道具になった関係のなかで、人は労働に充足感を得ることができるとかどうかだ。

この問いには、ふたつの視点で考えることができる。それはふたつのスケールと言い直してもよい。たとえば、私たちは今日でも自分の労働に充足感を感じる時がある。そしてそれはスケールの小さい世界で発生する。農民が作物の育っていく過程に労働の価値を感じたり、料理人がお客さんの対応のなかに労働の充足感をえたりというのもそのひとつだけれど、企業のなかで働いているときでも、ときにユーザーとの関係や、ときに職場での人間関係のなかで、人々は自分の労働の価値を感じていたりする。それを可能にしているのは、労働を成立させている関係がつかみとれる、小さなスケールにおいてである。

ところが、規模が大きな企業や組織の経営になると構造は変わってくる。ここでの主役は組織やシステムであり、このシステムとユウゴウした組織人としてしか個人の価値は生まれない。だからその個人は、容易に他の個人と置き換えることもできる。仮に誰かが職場を去っても、彼がいた部署に別の人が入ればシステムは安泰なのだから。こうして私たちは代替可能な人間として扱われ、経営システムにとって必要な労働力にすぎない存在であることを強いられることになる。

スケールの違いは、関係が主役になれる規模と、システムが主役になる規模との相違として表われてくるといってもよい。たとえば、私の知り合いの宮大工さんは、彼に仕事を発注してくる寺社や建て主さんとの関係で仕事をしているのであって、システムのなかで仕事はしていない。さらに彼の背後には、日本の文化財や歴史との関係なども存在している。そしてこの関係のなかで自分の仕事を検証し、労働の意味を見いだす。

企業で働いている人も、一面では同じであるはずだ。自分を包んでいる関係のなかで仕事をしているとき、この宮大工さんと同じように、人はその関係のなかで自分の仕事を検証し、労働の意味を感じることができるといえる。だがシステムに組み込まれた組織人としては、経営の道具として扱われている自己の存在しか生まれない。

このことは、人間たちが幸せに働き暮らすために必要なスケールとは何かを、私たちに考えさせることになった。すなわち、幸せを感じとれる土台とは何かである。たとえば、A市に住んでいる人がA市の市民であることに満足はしていても、心から幸せを感じているということはまずないだろう。その人が幸せを感じる場合は、家族との関係のなかにあったり、ときには職場での関係や友人との関係であったりするはずだ。幸せは関係をつかみとれるスケールの世界から生まれてくるものである。それに対して、A市は多くの人が暮らすシステムにすぎない。

今日とは、このことに多くの人たちが気づきはじめた時代なのだと思う。だから、大企業で働くことに価値を見いださない人たちも増えてきた。有意義な関係のなかで働くことをめざして起業する人たちは、いまでは雨後の筍たけのこのように登場している。そして暮らしの

世界でも、関係性づくりやコミュニティづくりが活発化してきている。^a いま私たちの社会の水面下では、自分たちが生きる世界の再創造がはじまっているといってもよい。それは、小さなスケールを基盤にした社会の再創造でもある。

『半市場経済』内山節 角川新書（二〇一五）三三頁～四一頁

問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字で書け。解答番号は(1)～(5)。

問二 傍線部㊦「近代以前の人間たちは、おおむね、このような世界で生きていたといってもよい」を筆者はどのような世界だと言っているか、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(6)。

- (a) 労働と経済が分離した世界。
- (b) 労働と経済が一体化した世界。
- (c) 労働と経済が拮抗した世界。
- (d) 労働と経済が混乱した世界。

問三

空欄

A

B

に入る接続詞の組み合わせとして、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(7)。

- (a) A ところが B たとえば
- (b) A すると B しかし
- (c) A そして B および
- (d) A ところで B したがって

問四

傍線部①「その労働に固執する理由など、どこにもないのである」とあるが、筆者の主張と最も一致しないものを一つ選べ。
解答番号は(8)。

- (a) いまの日本では三分の一以上の人々が非正規雇用のもとで働いているから。
- (b) 転職することが困難だから。
- (c) 自分の労働は自分の生活（経済）のためだけだから。
- (d) 経営の悪化によって非正規雇用の仕事がなくなってしまうから。

問五

傍線部②「企業の側でも同じようなことが発生している」とあるが、筆者の主張と最も一致しないものを一つ選べ。解答番号は(9)。

- (a) 労働者は必要な労働力に過ぎない。
- (b) 企業は不当労働行為の認定を心配する。
- (c) 企業はヨジョウとなった労働者を解雇する。
- (d) 経済と労働は異なったメカニズムで成立する。

問六

傍線部③「この問題は今日でも解決してはいない」とあるが、どのような問題なのか、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(10)。

- (a) 十九世紀に入ると、ヨーロッパでは激しい労働者の運動が展開していくことになった。
- (b) 自分の労働が経済の道具にすぎなくなり、労働の誇りが失われた。
- (c) 労働が非衛生的な工場で低賃金、長時間労働として行われていた。
- (d) 反資本主義の時代を生み出した。

問七

傍線部④「問題は経済や経営の道具になった関係のなかで、人は労働に充足感を得ることができるかどうかだ」とあるが、どのように充足感を得たらよいのか、筆者の考えと最も一致するものを一つ選べ。解答番号は(11)。

- (a) 規模の大きな企業や組織を目標として充足感を得る。
- (b) 経営システムにとって必要な労働力として充足感を得る。
- (c) 農民や料理人や宮大工として充足感を得る。
- (d) 顧客や職場の人間関係の中、労働の価値を検証することで充足感を得る。

問八

本文で示された筆者の主張と最も一致しないものを一つ選べ。解答番号は(12)。

- (a) 働くことが楽しくないばかりか、働くことで自分がボロボロになっていくと感じる現実がある。
- (b) 誰もが幸せに生きる社会をつくるために経済や労働を再考することが必要だ。
- (c) 人間が幸せに生きるためには、住んでいる市のスケールが重要だ。
- (d) 幸せとは人と人の関係をつかみとれるスケールの世界から生まれる。

問九

傍線部⑤「いま私たちの社会の水面下では、自分たちが生きる世界の再創造がはじまっているといってもよい」とあるが、それはどのような社会を指しているか。本文を参考にして五〇字以内で説明せよ。解答番号は(13)。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「洪ちゃ、もうこのまま豊橋に居るか」

賑やかな街を歩きながら、七重はからかうように洪作に言った。

「ううん」

あわてて、洪作は大きく首を振った。

「おばあちゃんはあした帰っても、夏休みだけここに居て、洪ちゃだけあとから帰ればいい」

七重はまた言った。

「ううん。——おばあちゃんと帰る」

洪作は必死な気持ちで言った。おぬい婆さんだけ帰って、自分があとへ残るなどということはとんでもないと思った。そして、自分の気持ちが母に伝わらなくては大変だと思ったので、

「おばあちゃんと帰る。洪ちゃはおばあちゃんと帰る」

を、くどく繰り返した。すると、七重はそんな洪作の態度が癪に障ったのか、

「判ってるわよ。うるさいわね」

と言った。それまでいっになく優しく思われて好きだった七重が、その一言で、再び洪作から遠いものになった。^⑦母はやはり意地悪く冷たい人間のように思えた。

母が反物を売っている店へはいつて行った時、洪作は、そんな母に幾らか反抗するような気持ちもあって、店の中へはいって行かなかった。そして暫く呉服屋の前に立っていたが、丁度その店の対い側に、金魚屋が店を張っており、そこで浴衣の子供たちがしゃがんで、水槽の金魚を覗き込んだり、それを小さい網ですくったりしているのを見ると、洪作はその方へ近寄って行った。そして暫くの間、子供たちの間に挟まって、金魚を眺めていた。

「すくってごらん」

金魚屋の五十年配の主人が言った。^⑧洪作は自分に言われたものではないと思っていたが、同じ言葉が二度目にその主人の口から出た時、洪作はそれが自分に言われたものであることを知った。

「坊！すくってごらん、一匹だけただですくわせて上げる。すくっていいよ」

洪作は言われるままに、小さい網を手にして、それを水槽の中に入れた。金魚は網の中ではね上がった。洪作がなお他の金魚を追おうとすると、

「もう、いかん。だめ、だめ」

主人は言った。洪作は残念だったが、それで網を主人に返さなければならなかった。

洪作はそれから他の子供たちが、同じように一回ずつただでしくわせてもらうのを眺めていた。湯ヶ島などでは見たくても見られない色の白い目鼻立ちの整った少女が、金切声を張り上げて、大きな金魚を追いつたり、やはり同じように湯ヶ島では想像もできない神経質な顔をした少年が、眉をしかめて、一匹の小さい斑点のある金魚を追いかけていたりしているのを眺めていた。① 都会の子供たちは、どうしてこのように利口そうで、はきはきものを言うのだろうかと思った。

洪作は、金魚屋の前で、どのくらいの時間が経ったか見当がつかなかった。ふと、母のことを思い出して立ち上がった。いきなり、これは大変なことになったという予感が洪作の心を驚掴みにした。

洪作はすぐ呉服屋の店先へ行った。果たして店内には母の七重の姿も、小夜子の姿も、女中の姿もなかった。洪作は呉服屋の店から右の方へ走った。そして途中で立ち停まると、今度は反対の方へ走った。そしてかなり走って十字路にぶつかると、そこを無我夢中で左の方へ曲がった。

(中略)

道はいつかまた広くなっていた。が、こんどは一軒の商店も見当らず、普通の住宅だけが並んでいた。ガス灯は消えていたので、あたりは暗く、通行人も殆どなかった。洪作はその頃からまた、思い出しでもしたように低く泣き声を出しながら歩いた。口からは泣き声を出し、鼻は鼻汁をすすり、全く機械的に足を動かしていた。洪作はそれからいろいろなところを歩いた。木柵があって、その向こうに二頭の馬が居て裸の男たちが馬体を洗っているところも通った。それからまた神社の前も通った。社務所のようなところで、二、三十人の男たちが酒盛りをしているのが、幻灯の中のひとこまのように見えた。

それからだんだん坂を上ったり、そこを下ったりした。途中で二、三回通行人から声をかけられたが、洪作は一切受けつけなかった。自分に声をかける者は、みんな交番に連れて行こうとするか、でなければ人さらいに違いなと思うわれた。

洪作はいつか泣くことは

A

になり、口から声を三回出しては、一回鼻をすすり上げていた。そうすると

B

とちよ

うどよく合った。そして心の中で、おばあちゃん、おばあちゃんとおぬい婆さん呼び続けた。どれだけ歩き、どれだけ経っただろう。洪作は向こうからくる人物と正面からぶつかった。

「あんた、洪ちゃじゃないかな」

相手は言った。洪作は聞き覚えのある声にはっとした。すると、

「もしや、あんた、湯ヶ島の洪ちゃじゃないかな」

また声がした。

「おばあちゃん」

洪作が言くと、

「やっぱり洪ちゃかな」

次の瞬間、生暖かい相手の掌がいきなり自分の頬を押えるのを、洪作は感じた。そのうちにその手はいきなり肩先を掴むと、

「洪ちゃ、おう、洪ちゃ」

そう呻くように言って、次の瞬間大声を発して、

「母ちゃんや、父ちゃんや、洪ちゃはいたぞ」

⑤と鶏がときでもつくるような、一種独特な調子で叫んだ。すると、道の前方から人の駆けて来る躰音がした。⑥駆けて来たのは女中のときであった。ときは洪作の前で地面にひざまずいて、

「坊ちゃん」

と言うと、それを合図に声を出して泣き出した。洪作はときがいつも小夜子だけを可愛がって、⑦自分に邪慳にすることを知っていたので、余り好感は持っていなかったが、この時だけはときにも懐しい気持を感じた。ときはやたらに洪作の体を抱きしめ、

「ばか坊ちゃん、ばか坊ちゃん」

と言って、自分の頬を押しつけて来た。

洪作はおぬい婆さんときに両方から手を取られて歩き出した。家は目と鼻の先ぐらいのところにあった。ときは洪作を送り届けると玄関へはいらず、すぐまた家を飛び出して行った。洪作を探しに出ている父と母を探すためであった。

おぬい婆さんは家にはいると、洪作を客用の夏坐蒲団の上に坐らせ、菓子鉢を運んで来て前へ置くと、

「食べんしゃい、食べんしゃい」

とこの土地の言葉で言った。

この時一人で隣室に寝ていた小夜子が起き出して来た。小夜子の方は洪作の迷子事件で無理矢理に寝かせつけられていたらしく、大きな眼をしたまま黙って洪作の隣に坐った。

「小夜ちゃんは、だめ。迷子にならんと菓子にありつこうたって、そうは問屋がおろさん」

おぬい婆さんは言った。そして、洪作だけに食べる食べろと言った。そうしているところへ、母の七重がときと二人で帰って来た。七重は部屋へはいつて来ると、いきなり畳の上にべたりと坐った。そして、

「ああ、よかった！」

といって大きな吐息をつき、

「一体、洪ちゃ、どこへ行ったの？——それにしても、よく一人で家へ帰れたものだわね」

と感嘆^⑤の声を洩らした。

「利発な子というのはこういうもんじゃ。どこへ置きっぱなしにしても、ちゃんと帰って来る。なあ、洪ちゃ」

おぬい婆さんは言った。

「置きっぱなしとはひどいことを。でも、今日はいろいろ言うのやめましょう。——何にしてもこれで一安心。よかった、よかった」^②

母は台所から西瓜の切ったのを持って来て、菓子鉢をずらしてそこへ置いた。

そこへこんどは巡査と父の捷作がやって来た。この方は二人とも家まで来て初めて洪作が戻って来ていることを知ったらしく、玄関で、それはそれは、とか、本当か、とか大きな声を出していた。洪作はお巡りさんに何と言って叱られるかも知れないと思い、体を小さくしてじっとしていた。やがて巡査が帰って行く気配がして、捷作と、玄関へ出て行った七重とおぬい婆さんの三人が一緒に部屋にはいつて来た。

「洪作、よく帰って来たな。どこをどう歩いて来た？言ってみなさい」

捷作は真顔で言った。しかし、洪作は自分が経験したことを答えることはできなかった。どこから話し出したらいいか判らなかったし、それに自分が経験したことすべてが、どこからどこまでが夢であり、現実であるか、はっきりと判らなかった。洪作は田圃の畦道を歩いたとか、馬がいたとか、そんなことを断片的に語った。思い出すことを半分も話さないうちに、洪作は強制的に寝かされた。

床に就くと、さすがに昂奮^{こうふん}しているらしく、洪作は遅くまで寝つかれなかった。隣室では、捷作、七重、おぬい婆さんの三人の間で、洪作の迷子事件の話が花を咲かせていた。洪作が無事に戻り、それから明日はおぬい婆さんと洪作が伊豆へ帰るということで、一座は

何となく和やかだった。^a おぬい婆さんの笑い声も、母の七重の笑い声も聞えていた。洪作はそれを聞いているうちに自分も何となく安心して、いつしか深い眠りにおちいって行った。

『しろばんば』 井上靖 新潮文庫（一九六五） 一二二頁～一三五頁

問一 傍線部①～⑤の漢字の読み仮名をひらがなで書け。解答番号は(14)～(18)。

問二 傍線部⑦「母はやはり意地悪く冷たい人間のように思えた」と思った理由として、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(19)。

- (a) 「もうこのまま豊橋に居るか」と尋ねたから。
- (b) おぬい婆さんだけ帰って、自分があとに残るなどということとはとんでもないと思ったから。
- (c) 自分の気持ちが母に伝わらなくては大変だと思ったから。
- (d) それまで優しかった七重が、洪作の一言で態度が変わったから。

問三 傍線部⑧「洪作は自分に言われたものではないと思っていた」とあるが、なぜそのように感じたのか、最も不適切なものを一つ選べ。解答番号は(20)。

- (a) 洪作は後から子供たちの間に入って金魚を眺めていただけだから。
- (b) 洪作は、はじめて金魚屋で泳ぐ金魚を見たから。
- (c) 洪作はこの土地の者ではなく疎外感を抱いていたから。
- (d) 金魚屋のご主人は見ず知らずの洪作に声を掛けるはずがないから。

問四

傍線部㉔「都会の子供たちは、どうしてこのように利口そうで、はきはきものを言うのだろうかと思った」とあるが、洪作が感じ取った都会の子供たちの特徴を、次の空欄に当てはまるよう三〇字以内で答えよ。解答番号は(21)。

湯ヶ島などにはいない「

」と思えたから。

問五

空欄

A

、

B

に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(22)。

- | | | |
|-----|-------|------|
| (a) | A 機械的 | B 歩調 |
| (b) | A 積極的 | B 失意 |
| (c) | A 散漫的 | B 気分 |
| (d) | A 効率的 | B 加減 |

問六

傍線部㉕「鶏がときでもつくるような、一種独特な調子で叫んだ」とあるが、この文章からどのような心情が推測できるか。その表現として、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(23)。

- | | |
|-----|--------------------|
| (a) | 遠くまで声を届けようとした様子。 |
| (b) | びっくりして声にもならない様子。 |
| (c) | 歌を口ずさむよう拍子を付けた様子。 |
| (d) | 安心して穏やかな気分を表現した様子。 |

問七

傍線部④「この時だけはときにも懐しい気持ちを感じた」とあるが、このとき洪作が感じた「懐しい」とは洪作のどのような感情を表しているか。最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(24)。

- (a) 過ぎ去った日を思う。
- (b) 遠く去った人を思い出す。
- (c) 心が引かれ、愛しく思う。
- (d) 故郷を思う。

問八

傍線部⑤「置きっぱなしとはひどいことを。でも、今日はいろいろ言うのやめましょう」とあるが、七重がおぬい婆さんとの口論を避けた理由として、最も適切なものを一つ選べ。解答番号は(25)。

- (a) 大きな心配事から解放されたばかりだから。
- (b) ときと二人で帰宅し畳の上に座ったばかりだから。
- (c) 巡査と捷作が来たところだから。
- (d) おぬい婆さんの発言通りだから。

問九

傍線部⑥「おぬい婆さんの笑い声も、母の七重の笑い声も聞えていた。洪作はそれを聞いているうちに自分も何となく安心して、いつしか深い眠りにおちいって行った」とあるが、洪作が安心した理由を、おぬい婆さんと七重の人間関係を本文の中から推測し、一五〇字以内で説明せよ。解答番号は(26)。